

事務職員会 ニュース

Administrative Staff Association News

Vol. **7**

February, 2026

千葉県
公立高等学校
事務職員会

その仕事、5年後につながっていますか？

— 全国・関東・中央研修で見た「事務職員の次の一步」—

特集

01 関東公立高等学校事務職員会若手研修
— 次世代を担う事務職員の集い —

02 全国事務職員研修会
— DXは「ツール」ではなく「考え方」だった —

03 文部科学省との意見交換会
— 国と現場担当者が語り合う —

04 職階別中央研修
— 中央研修(事務職員研修)に参加して —

— 巻頭 —

令和7年度

千葉県教育
功労者表彰
受賞者紹介

関東公立高等学校事務職員会若手研修

次世代を担う事務職員が集い

令和七年十一月七日（金）、ホテルレイクビュー水戸において「関東公立高等学校事務職員会若手職員研修」が開催されました。開催地の茨城県をはじめ、群馬県・埼玉県・千葉県計四県から若手職員が一堂に会し、熱心に意見交換を行いました。

今回の研修は二部構成で実施されました。第一部は「失敗」から学ぶ！若手職員のリアルな体験談共有」、第二部は「業務が円滑に進む学校環境の要素」『働きやすさ』って何で決まると思いますか？』というテーマでした。



岩崎 智代 事務主幹
(幕張総合高等学校)

令和七年度 千葉県教育功労者表彰

会員一同、
心よりお祝い申し上げます。



事前アンケートで寄せられた意見や悩みをもとに、参加者同士が率直に語り合う場となりました。特に第一部では、校内外問わず対人対応に関する失敗談が多く挙げられました。例えば、工事の調整や生徒対応、保護者や業者との連絡など、日々の業務で起こり得るリアルなエピソードばかりでした。そうした経験を通じて、「事前準備の大切さ」や「繰り返し経験することで自信がつく」といった成長の実感を得たという声が印象的でした。私自身も「電話を積極的に取り、経験を重ねることと仕事を覚える」という先輩からのアドバイスを思い出し、トライアンドエラーの積み重ねが知識と自信につながることを改めて感じました。

第二部では、「働きやすさ」の要素として職場の人間関係や業務量、設備など多様な視点が挙がりました。中でも人間関係の重要性を指摘する声が多く、良好なコミュニケーション環境が業務の効率化や満足度向上につながることを再認識しました。

今回の研修を通じて、同じ事務職員であっても県ごとに業務の進め方や工夫が異なることに驚きました。千葉県が他県より先進的な取り組みを行っている点や、逆に他県から学ぶべき点も



多く見つかりました。さまざまな気づきと刺激を得られる貴重な機会となり、今後の業務に活かしていきたいと強く感じました。

さらに、こうした研修の場を通じて、他県の職員と交流し意見交換することの大切さも実感しました。異なる立場や経験を持つ仲間と話すことで、自身の視野が大きく広がり、新たな発想や解決策を得ることができました。今後も積極的にこのような機会に参加し、得た知見やネットワークを日々の業務に役立てていきたいと思えます。

記事作成者
千葉東高等学校 副主査 秋山 健吾

全国事務職員研修会

～DXは「ツール」ではなく「考え方」だった～

校務DXや生成AI——。言葉は聞いたことがあっても、「自分の業務にどう関わるのか」「どこから始めればいいのか」と感じている事務職員は少なくありません。事前アンケートでは、多くの参加者が校務DXに期待を寄せる一方で、スキル不足や時間の確保、制度面の制約といった課題を抱えていることが明らかになりました。こうした声を受け、令和7年11月21日(金)、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、事務職員研修会が開催されました。研修では、学校事務の現場に即した校務DXの考え方や具体的な実践例が紹介され、事務職員がこれから担う役割や可能性について、改めて考える機会となりました。今回は、研修に参加した事務職員のインタビューを通して、印象に残った学びや気づき、今後につながるヒントを紹介します。

業務時間の
効率的な配分を
考える時間

千葉東高校
秋山 健吾 副主査



未来へのヒント
を得る時間

成東高校
萩原 凌 主事



Q. 研修に参加しようと思った理由や、期待していたことは何ですか？

【秋山】実際に業務で使用している生成AI等の事例を学ぶことができると思ったためです。

Q. 研修で特に印象に残った内容やエピソードを教えてください。

【秋山】校務DXの定義について本研修会では「支えることを変える」「学校運営をデータで支えるしくみ」と話していたことが印象的でした。

Q. これは「今後の業務で役立つ」と感じた学びは何ですか？

【秋山】すぐに業務へ取り入れられる内容は多くありませんでしたが、これからの事務業務のあり方を考えるきっかけとなる学びがありました。ExcelとChatGPTを組み合わせた活用例など、現状では千葉県での利用は難しいものの、今後の業務改善やICT活用を考えるうえで参考になる視点を得ることができました。

Q. 研修前後で、自分の考え方や仕事への向き合い方に変化はありましたか？

【秋山】研修の前後で変化はありました。特に限られた時間の中で効率的に仕事をするかをより考えるようになりました。

Q. 今回の研修を一言で表すと、あなたにとってどんな時間でしたか？

【秋山】一言で表すと「業務時間の効率的な配分を考える時間」でした。

Q. 研修に参加しようと思った理由や、期待していたことは何ですか？

【萩原】校務DXは、事務職員の業務効率化や働き方改革に直結するテーマだと感じていました。現場でどのようにデジタル化を進めているのか、具体的な事例やツールの活用方法を知りたいと思い参加しました。特に、「すぐに実践できるヒント」を得ることを期待していました。

Q. 研修で特に印象に残った内容やエピソードを教えてください。

【萩原】学校でのDX事例です。欠席連絡や会議運営にMicrosoft FormsやPower Automate、Teamsを活用している点や、「Teamsを見ないと困る仕組みにしている」という話は、DXを浸透させる工夫として印象的でした。物品管理をTeams上で共有し、Excelで検索できる仕組みも、すぐ取り入れたいと感じました。

Q. 今後の業務で役立つと感じた学びは何ですか？

【萩原】Webブラウザで利用できるオンライン掲示板アプリを使ったアイデア共有や、ExcelのCopilotによる関数・VBAの提案機能です。情報を整理し、誰でもアクセスできる環境づくりが業務効率化につながると感じました。

Q. 研修前後で考え方に変化はありましたか？

【萩原】「DXはツールを導入するだけでなく、人の意識改革が必要」という言葉が心に残りました。今後は、職員間のコミュニケーションや周知の工夫も意識していきたいと思っています。

Q. 今回の研修を一言で表すと？

【萩原】「未来へのヒントを得る時間」です。校務DXが学校全体の働き方を変える力を持っていると実感しました。

文部科学省との意見交換会

～国と現場担当者が語り合う～

令和7年11月21日、国立オリンピック記念青少年総合センターで、特別支援教育就学奨励費をテーマとした文部科学省との意見交換会が開かれました。全国事務職員研修会と同日・同時開催というなか、研修とは異なる空気が流れる会場では、日々の業務で抱える疑問や悩みが率直に交わされていきました。学用品費や交通費、ICT関連——現場に根ざした話題を通して、制度の背景や国の考え方が立体的に浮かび上がります。この時間を通じて、参加者は何を感じ、どんな言葉を持ち帰ったのか。制度を扱う立場だからこそ見えてきた視点を、インタビューで追いました。

就学奨励費について 見直す良い機会

船橋夏見特別支援学校
丸山 航也 主事



全国の実務担当者の 思考を学べる時間

袖ヶ浦特別支援学校
小柳 俊輔 主事



午前10時40分より

Q. 意見交換会に参加したきっかけや、事前に期待していたことは何ですか？

【丸山】本校の事務長から「就学奨励費の意見交換会に参加しないか」と声を掛けていただいたことがきっかけです。今年度「就学奨励費マニュアル検討チーム」を立ち上げており、そのメンバーの中から参加者が選出されたと聞いています。

今年度から就学奨励費の担当となり、不明点も多かったため、意見交換会を通じて情報収集を行い、日頃抱えている悩みや課題を他校の方と共有できればと期待していました。

Q. 意見交換会の中で特に印象に残った意見や、新たに気づいた点はありませんか？

【丸山】学用品購入費や通学費の定額支給についての意見が特に印象に残りました。現状の支給方法は事務手続きが複雑であり、他校でも定額支給を望む声が多いと感じました。

Q. 自校の就学奨励費業務で、日頃感じている課題や悩みはどのようなものですか？

【丸山】支給対象となる学用品かどうか判断に迷う場面が多くあります。過去の支給実績をもとに一覧表を作成していますが、記載のない物について問い合わせがあると判断が難しい場合があります。また、領収書に支給対象外の物が含まれていることもあり、慎重な確認が必要です。保護者の理解度にも差があるため、周知の方法についても課題を感じています。

Q. 他校の取組を聞いて印象に残ったことはありましたか？

【丸山】他校の事務負担の大きさを知りました。本校ではマイナンバーを活用していますが、他校では毎年課税証明書を収集していると聞き、業務の煩雑さを実感しました。

Q. 今回の意見交換会を一言で表すと？

【丸山】悩みを共有し、自校の対応を見直すきっかけとなる、有意義な時間でした。

Q. 意見交換会に参加したきっかけや、事前に期待していたことは何ですか？

【小柳】参加のきっかけは、船橋夏見特別支援学校の事務長からお誘いいただいたことです。多くの学校が要望していた定額化や限度額引き上げについて、何か前向きな回答が得られないかと期待していました。実際に、限度額引き上げについては増額していく旨の話があり、印象に残っています。

Q. 意見交換会の中で特に印象に残った意見や、新たに気づいた点はありませんか？

【小柳】就学奨励費と就学支援金制度の整合性や、保護者理解に関する意見が印象に残りました。兄弟で特別支援学校と普通校に通う家庭では、奨励費は実費支給、支援金は定額支給であることから、その違いを説明する難しさがあるという話でした。奨励費担当者も、関連する制度について一定の理解が必要だと感じました。

また、文部科学省の担当者から、特別支援学校の児童生徒数や奨励費実績額の推移について説明があり、今後さらに多様な事情を持つ児童生徒が増える中で、制度理解の重要性を改めて実感しました。

Q. 自校の就学奨励費業務で、日頃感じている課題や悩みはどのようなものですか？

【小柳】特に課題と感じているのは学用品費です。申請から支給までに、保護者・学校双方の負担が大きいと感じています。保護者は領収書を保管し、学校側は書類の保管や支給可否の細かな判断が必要となります。こうした負担をどう減らしていくかが、今後の大きな課題だと思います。

Q. 他校の取組を聞いて印象に残ったことはありましたか？

【小柳】各校それぞれの事情に応じた対応がなされており、とても参考になりました。また、他県では実務担当者が定期的に集まり情報交換を行っていると聞き、千葉県でも同様の場があればよいと感じました。

Q. 今回の意見交換会を一言で表すと？

【小柳】「全国の実務担当者の思考を学べる時間」でした。自分にはなかった視点や考え方に触れられた、有意義な時間でした。

職階別中央研修

(第四回事務職員研修)

学校運営を支える立場として、事務職員に求められる役割は、年々広がりを見せています。

令和七年十一月十七日から二十一日までの五日間、茨城県つくば市にある教職員支援機構つくば本部において、令和七年度職階別中央研修(第四回事務職員研修)が行われました。

本研修では、学校組織マネジメントやリスク・財務マネジメント、事務職員の役割と職能成長などをテーマに、講義・演習・協議を通して、学校経営に主体的に参画する力の向上が図られています。全国から集まった事務職員は、日々の実務を振り返りながら議論を重ねる中で、「自分の仕事をどのようにつまみ、どのように生かしていくのか」という問いと向き合うことになりました。

この研修に参加された方の感想を通して、研修の意義と、各現場に持ち帰られた気づきを紹介します。

令和7年11月に茨城県つくば市にある教職員支援機構にて、職階別中央研修(事務職員研修)に参加させていただきました。4泊5日の研修で、学校を5日間不在にすること、家庭のことを思うと、とても不安でしたが、職場や家族の協力により、研修に参加させていただくことができました。

一方的に講義を受ける研修ではなく、

- ①講義を受ける
- ②自分との対話をし課題と向き合う
- ③4人でグループ討議
- ④グループ討議後、更に自分との対話でした。

グループ討議で他県の方との意見交換は貴重な経験でした。

講義の中で印象に残った講師の方の言葉を紹介させていただきます。

・事務職員は「事務をつかさどる」職で、「唯一の総務・財務等に通じる専門職」として位置付けられている。

・最悪の状態を想定することが危機管理となる。変わるチャンスは大きな事故があった時と、

うまくいっている時。法令はあくまでも土台であり、5年又は10年先を見る。

- ・事務職員の仕事は、間接的に子供を幸せにする仕事である。
 - ・学校を変える時は、抵抗はつきものなので、一人で抱えず味方を巻き込む。
 - ・勤務時間内に最高のパフォーマンスを。
- (事務長は笑顔と環境づくり)

1日目の夜に懇親会があり、参加者で持ち寄った各県の銘酒と銘菓が会場のテーブルに並び、楽しく会話が弾みました。「千葉県です。」と自己紹介すると、「熊がいなくていいですね。」とみなさんから言われました。他県からは、熊がいないうらやましい県という印象のようでした。

今までは、目の前のことをこなすだけで精一杯でしたが、研修を受講して、もっと広い視野でものを見ていかなければいけないことを気づかせていただきました。今回の研修参加にあたり御協力いただいた方に感謝いたします。

中央研修(事務職員研修)に参加して

千葉聾学校
事務長 本橋 晶子

つなぐ、伝える、支える。情報厚生部の1年



令和7年5月、「事務職員会報」は「事務職員会ニュース」として新たな一步を踏み出しました。行事や研修の節目ごとに発行するスタイルへの移行は、事務職員会の取り組みや現場の課題を、よりリアルに、よりタイムリーに共有していくための試みでもあります。

Vol.1からVol.7までを振り返ると、全国・関東・全体研修、新規採用職員研修など、多くの学びの場が思い起こされます。

情報厚生部として、限られた紙面の中で何を伝えるべきかを考え、現場の声や参加者の思いを丁寧にすくい上げながら、毎号制作を重ねてきました。そこには、制度や業務を知ることにとどまらず、「これから事務職員としてどう関わっていくのか」を考える視点が、随所に表れているように感じています。

Vol.7となる本号を以て、今年度最後の発行となりますが、ここまで積み重ねてきた歩みは、一つの区切りであると同時に、次へと視線を向けるための通過点でもあります。

本ニュースが、日々の業務を振り返り、これまでの歩みを共有しながら、皆さまそれぞれの現場での取り組みを支える一助となることを願い、情報厚生部一同、今年度の締めくくりといたします。

情報厚生部一同
松戸向陽高等学校 坏 祐弥

～令和7年度 情報厚生部員を紹介します。～

副会長	船橋夏見特別支援学校	事務長	佐藤 久美
部長	白井高等学校	事務長	龍野 紀子
副部長	多古高等学校	事務長	香取 恭央
常任理事	千葉東高等学校	副主査	秋山 健吾
常任理事	松戸向陽高等学校	主事	坏 祐弥
支部役員(千葉南)	土気高等学校	主事	阿部 史恵
支部役員(千葉北)	磯辺高等学校	副主査	廣田 雅也
支部役員(松戸)	松戸高等学校	事務長	齋藤 克敬
支部役員(東葛南)	我孫子東高等学校	主事	秋葉 莉穂
支部役員(山武)	大網高等学校	主事	野口 亜里紗
支部役員(市原)	市原特別支援学校	主事	須長 薫